人間行動学科 社会学コース

社会学コースってどんなとこ？

あなたは「なぜ大学へ進んだのですか」と問われたら、何と答えるでしょうか？ 自分の選択の成り立ちを省察し、選択を可能としている社会（身近な集団から国際社会まで幅広く）について考える思考作法、これらを捉える俯瞰的な視点へと関心を持つことができれば、あなたは社会学に向いているでしょう。社会学コースでは、講義や演習で理論やその応用（あつかうテーマは幅広い）、社会調査法を学びます。また、実習では学外へ出て現場に学ぶという授業スタイルを実施し、年度末に報告書を作成します。社会調査科目を履修することで、社会調査士資格を取得することもできます。

伊地知先生の研究について

私は朝鮮地域研究をしています。その一環として、済州島にルーツをもつ方を中心に在日コリアンの生活史調査を行なっています。日本の植民地支配によって生活の場を奪われた朝鮮人は生きる道を求めて、あるいは労働力として連れてこられ、日本の敗戦で解放を迎えたものの、すぐに朝鮮半島が冷戦構造下に置かれ、多くが日本に残らざるをえなくなりました。人びとが朝鮮から日本、特に大阪へ移動することで生じた暮らしの変化について研究をしています。大阪には済州島ルーツの方が多く、植民地期以降、海女として出稼ぎに来た人もいました。その姿を学ぶには、映画『海女のリャンさん』がオススメです。済州島でも調査を行なっており、まず漁村に2年間住み込んでフィールドワークし、通い続けて23年目となりました。一人ひとりの人生譚からみえてくる人びとの移動史、そして日本と朝鮮半島の関係史をふまえ、私たちが生きる現代社会の多様性と公共性についても研究や調査を行なっています。

教授 伊地知（いぢち） 紀子（のりこ）先生

おすすめの本

内田 樹『日本辺境論』（新潮新書）

日本人はどこかに世界の中心を求める辺境人なのであると述べる本書を読むと、個性にこだわらず生きる術を見つけられるかも。

入澤さんの学びについて

3回生 入澤（いりさわ） 奎輔（けいすけ）さん

——コースに入ったきっかけ

高校生のときから、まちづくりや地域に関心を持っていて、地域特有の方言や文化の違いなどを通して人と人の関係がどのように形成されていくのかを勉強したいと思い、社会学コースを選びました。

——コースに入ってからの気づき

社会学を学んでから、大阪は社会学を学ぶうえでぴったりの場所だと気づきました。北部と南部のあちこちに、店の外観、文化、住んでいる人などの違いが顕著に表れており、今まで気づいていなかったそれぞれの地域差を楽しめるようになりました。また、思っていたよりも社会学の研究の幅というのは大きく、自分の興味のある分野以外も学ぶことができ、授業の一環として行なわれるフィールドワークなどの現地調査を通して、ニュース番組などで流れている様々な社会問題をより身近なものとして考えることができるようになりました。

おすすめの授業

社会学実習（Ⅰ・Ⅱ通年）

実際に現地調査を行ない、結果をまとめます。今回私のグループは大阪市西成区が対象で、地域が抱えている問題や現状を捉えます。

現地に出向くことでその地域の特徴を肌で感じられ、また現地の人の声を聞くことで新たな課題を知ることができます。机に向かうだけでは知りえない発見や刺激も多く、充実した授業です。

卒業論文 タイトル紹介

- ○新聞のテレビ番組欄から見る肥満・ダイエットに関するテレビ番組の変容
- ○地域観光における大河ドラマの利用について
- ○貧困女子——階層化のメカニズム——

伊地知先生にとっての「芸術」

「芸術」について学ぶというと、ちょっと緊張するかもしれませんね。文学、音楽、美術、映像など「カタそうな」カテゴリーが思い浮かびやすいかもしれません。そうすると、名画や名曲を知らないといけないのかなと思う人もいるでしょう。そんなことはありません。社会学の中で何を芸術として考えるのかは、実は幅広いのです。マンガ・アニメ、演劇、ポピュラー音楽なども対象になりえます。これらをどのような視点から捉えるのか、これも様々です。作品、その作品が生まれる時代・社会・制作現場、作り手、受け手、制度、政策などが考えられます。テーマは思考の入り口です。対象を設定し、分析視点を定め、芸術と社会の関係について考察する、これが社会学的アプローチの基本といえるでしょう。方法は理論研究でも、フィールドワークによる研究でも可能です。

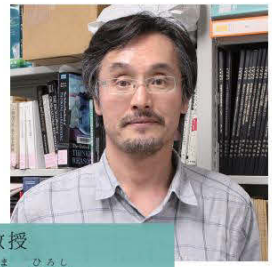
人間行動学科 心理学コース

心理学コースってどんなとこ？

心理学は、臨床心理学などの応用分野と実験を中心とする基礎分野に大別されます。大阪市立大学では、臨床心理学コースは生活科学部にあり、文学部では科学を志向する実験心理学を専門としています。心理学コースでは、2回生から基礎的な心理学実験のトレーニングを始め、それを4回生で行なう卒業研究に繋がるようなカリキュラムを提供しています。また実験や調査で集めたデータの分析のための統計学もカリキュラムの中に用意されています。現在の4名のスタッフの専門は、社会心理学、認知心理学、生理心理学、学習心理学です。すべてとは言えませんが、実験心理学の領域はかなりカバーできています。

山先生の研究について

私は人間の推論についての研究を行なっています。なかでも、西洋と東洋の文化の比較を通して、人々がどのようにして物事を推し量るのかというのを中心に研究をしています。たとえば、東洋に位置する日本では、ハイコンテクスト（文脈から相手の意図を汲み取る能力）が発達しているため、主語などの言語を省略を行なうと正しくコミュニケーションがとれない、というように両者の特徴がはっきりと分かれています。同じ人間であるのに、このような特徴がどのようなきっかけから生じたのか、現在に至るまでに、どのような多様化の過程を経てきたのか、といった点に焦点を当てた研究です。また、裁判に対する心理学、都市文化の中における人間像、また論理学と心理学の関係性などといったような学問にも関心を寄せています。



教授 山（やま） 祐嗣（ひろし） 先生

おすすめの本

ジャレド・ダイアモンド『銃・病原菌・鉄　1万3000年にわたる人類史の謎』（草思社文庫）

歴史的に文明は、残念ながら世界において不均衡に発展してきました。この不均衡を、民族の優劣という概念を一切用いずに、地勢的・生態的な差異で説明を試みた書です。また、最近注目されるようになったビッグ・ヒストリーのパイオニア的出版でもあります。

速水さんの学びについて

3回生 速水（はやみず） 秀（しゅう）さん

——コースに入ったきっかけ

入学当初から心理学コースに進もうと考えていました。人というのがどのようなものであるか、ということに興味を持っていて、その問題について心理学の面から勉強したいと思い、心理学コースに入りました。

——コースに入ってからの気づき

心理学コースに入り、専門の授業で先行研究と同じ手順で実験を試してみるというものがあり、そこで研究に必要な実験や調査などの手順を理解し、研究において何度も試行錯誤する地道な作業の大切さを知りました。また、テレビやインターネット上で行なわれているアンケートを見て、どのような方法を踏んでいるか、どのような意図をもってアンケートを行なっているのか、というようなことに目を向けるようになったり、心理学的アプローチを「される」側から、「する」側に変わったことで、普段の日常での視野が広がったのではないかと思います。

おすすめの授業

心理学実験演習Ⅲ

心理学実験演習はコースの先生といっしょに、自分のやりたい実験内容について調べながら考えていく授業です。最終的には実際に実験を行ない、レポートとしてまとめます。講義式の授業が多い中にある数少ない実践的な授業で、心理学のおもしろさがぎゅっとつまっていると思います。

山先生にとっての「芸術」

芸術は、その創作過程や鑑賞過程において、人間が心の中でどのようなことを行なっているのかという点で、心理学の題材となります。また、創造的とはどのようなことなのかという心理学的研究の中にも芸術は題材として含まれています。人間の脳が、進化の歴史の中でなぜ芸術を創り出し、またそれを美しいと感ずるのかには、様々な要因が関わっています。

人間の歴史の中で芸術が花開き始めたのは、2～3万年前の文化のビッグバンといわれる時期で、ラスコーの壁画などが描かれ始めました。どのような人々が、どのような動機で、何を目的に描いたのか、想像しただけでワクワクしてきますが、このような問題も最近では心理学であつかうようになりました。

▲ラスコーの壁画

卒業論文 タイトル紹介

- ○電子メールとラインにおける顔文字・スタンプの付与が感情推測に与える影響
- ○劣等感が他者に対する感情と印象に及ぼす影響
- ○迷信に従った行動はなぜ生じるのか

学術情報総合センター（通称「学情」）の蔵書は約260万冊。図書のみならず雑誌、新聞、論文など様々な資料が収められています。

学情には、学生なら自由に使えるパソコンルームやDVD鑑賞などができるところもあります。